

キャラクター名	プレイヤー名
天野 朱羽	

シンドローム	キュマイラ パロール	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプション		年齢	15	性別	男
覚醒	無知	衝動	闘争	初期侵食率	33 %
出自	兄弟	経験	純粋培養	邂逅	幼子

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	36
肉体	3	1	3			7	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	2	0	0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	1	5	交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
神明裁判(これが僕の正義だから)	RC	11r+6		4	3+6+7	100%未満 命中時飛行状態解除 5使用前提
異端審問(『俺』が守りたいのはただ)	RC	12r+6		5	3+6+7	100%以上 命中時飛行状態解除 5使用前提

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
コネ:噂好きの友人		ロイス			
コネ:UGN幹部		対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス 消費
		精鋭:RC	P	N	
		枢姫芽楼	P 尽力	N 劣等感	
		桐生嚙矢	P 友情	N 隔意	
			P	N	
			P	N	
			P	N	
			P	N	
			P	N	
		最大財産P:	4	残り財産P:	2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト:パロール	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	組み合わせた判定のクリティカル値を□Lv							
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100%	
効果:	判定失敗 シナリオ1回							
完全獣化	2	6	マイナー	至近	自身	自動	—	
効果:	シーン中【肉体】判定ダイス+[Lv+2]							
魔獣の本能	1	2	メジャー	—	—	—	—	
効果:	判定を【肉体】に変更							
インビジブルハンド	4	4	メジャー	視界	範囲(選択)	対決	—	
効果:	[攻撃力:+Lv]射撃攻撃、ラウンド1回							
吸着	★							
効果:	「鳥ですから。ふわ、ってね」							
至上の毛並み	★							
効果:	「見てください。僕の羽は綺麗なんです」							
猫の瞳	★							
効果:	「猫……というよりは、猛禽類ですけど」							
鋭敏感覚	★							
効果:	「そこらの鳥には負けませんよ」							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「天野朱羽です！今誰か僕のこと呼びましたか？」
「うー、古典だけはどうにも……うー……」
1per:僕/俺 2per:君
□□□□□□□□□□
あまの しゅう。いつでも元気な男子高校生。高校1年、総合進学クラス。元気である以上に非常に礼儀正しい性格のようで、誰かとすれ違う時に会釈を欠かさないタイプの優等生。制服も学校内にいる時はほとんど着崩していない。UGNのエージェントと学校の先生の三者面談でも、とくに軋轢を起こすことも無くさらっと問題なく帰って来ることが出来る。そのため、三者面談のプリントや授業参観のプリントを素直に大人しくちゃんと見せていた。さすがに高校生にもなると恥ずかしいのかやらない模様。
ちょっと低血圧気味なのが午前中はぼんやりしている時がある。時々適当に返事をする時もあるが、それを掘り返されると恥ずかしいらしく「忘れてください」と言ってくる。
UGNの内部で誕生したUGNチルドレン。基本的に余りUGN管轄外に出たことがない、箱入り少年。1つ年上の兄がいたが、幸か不幸か兄はレネゲイドウイルスに感染することはなく、兄が物心つく少し前にUGNの外の家庭に里子に出された。現在その「兄」との関係は良好。記憶処理自体はされているものの方が一を防ぐために兄弟であることを言えないこと以外は不便もないし、そもそも苗字が違うのと、ほとんど一緒に過ごしていなかったことから兄と呼ぶのも彼にとっては違和感があるらしく、極めて普通の、日常的で良好な友人関係を築いている。
それもあってかなのか、UGNの外の世界、「もしもUGNではないところに産まれたら」ということに興味が無い訳では無い。ないわけではないが、今自分の抱える現実が現実で変えようもなく、変える必要も無いと笑うようなドライな一面もある。言ってしまうと現実主義者。普段が年相応の少年然としているぶんもあってか、そういう現実的な面の時の涼しい顔はちょっと怖い。
UGNチルドレンとして、『ホーム』で特にレネゲイドのコントロールについて厳しい指導を受けていた。その結果が現在である。レネゲイドのコントロールはなかなかのもの。ただ、厳しくて過酷でつらい時期であったと本人は思っているし、好き好んで誰かに話すような内容でもないかなとも思っている。その時の同期は、今誰もここにはいないから。その思い出を共有する相手もいないのに思い出話をしても、きっと虚しいだけ。
ちなみに、そこで貰った今のコードネームは正直あんまり気に入っていない。確かに大きな鳥になるけど、そうだけど！なんかこう、もっとかっこいいのなか